

παράκλησις

パラクレーシス

知っておきたいキリスト教のことば (151)

慰め なぐさめ

教会では誰かが亡くなったとき、このように書くことがあります。
彼(彼女)の魂の平安とご家族への慰めをお祈りください。

慰めという言葉には、一般的に次のような意味があります。「何かをして一時の悲しみや苦しみをまぎらせる。心を楽しませる。心をなごやかに静める。労をねぎらう。いたわってやる。なだめる。すかして落ち着かせる」。

キリスト教では、慰め主は神さまであり、イエス様です。ですから上のような意味よりも、心の中に起こった痛みや悲しみといった荒波を神さまがおさめてくださるというイメージでしょうか。神さまの慰めによって、心の平安が得られるということでしょう。

英国国教会では、聖餐式のときに以下のような四つの慰めの言葉が読まれるそうです。

疲れた者、重荷を負う者は、だれでもわたしのもとに来なさい。休ませてあげよう。(マタイによる福音書 11:28)

神は、その独り子をお与えになったほどに、世を愛された。独り子を信じる者が一人も滅びないで、永遠の命を得るためである。(ヨハネによる福音書 3:16)

「キリスト・イエスは、罪人を救うために世に来られた」という言葉は真実であり、そのまま受け入れるに値します。わたしは、その罪人の中で最たる者です。(テモテへの手紙一 1:15)

わたしの子たちよ、これらのことを書くのは、あなたがたが罪を犯さないようになるためです。たとえ罪を犯しても、御父のもとに弁護者、正しい方、イエス・キリストがおられます。(ヨハネの手紙一 2:1)

わたしたちも聖書を通して、神さまからの慰めをいただきましょう。

次回は「ナザレ人」です。お楽しみに。



「山上の説教」

コジモ・ロッセツリ

(1439~1506年)

悲しむ人々は、幸いである、その人たちは慰められる。

(マタイによる福音書 5章4節)

